

ながいけ よこえふるやしき 長池ニシタンボ遺跡・横江古屋敷遺跡

調査面積	長池ニシタンボ遺跡 554 m ² 、横江古屋敷遺跡 801 m ²
調査期間	令和6年6月～9月
遺跡の種類	集落跡
遺跡の時期	長池ニシタンボ遺跡：弥生、中世、近世 横江古屋敷遺跡：弥生、古墳、古代
主な遺構	長池ニシタンボ遺跡：溝、土坑、小穴、井戸 横江古屋敷遺跡：自然流路、小穴
主な遺物	弥生土器、近世陶磁器、玉製品など
概要	

長池ニシタンボ遺跡と横江古屋敷遺跡は、長池土地区画整理事業に伴い発掘調査を行いました。長池ニシタンボ遺跡は平成3年以来、横江古屋敷遺跡は野々市市としては初の調査となります。どちらの遺跡も主な時代は弥生時代の終わり頃です。

長池ニシタンボ遺跡では弥生時代後期後半の方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}と呼ばれる溝で囲った方形の墓の一部が見つかりました。見つかったのは溝の一部で、墓の大きさはおよそ一辺9m程とみられます。残念ながら埋葬する部分は既に失われており詳細はわかりませんでした。

横江古屋敷遺跡は安原川をまたぎ野々市市と白山市にかけて広がる遺跡です。今回の調査で、安原川が頻繁に氾濫する場所であったことが分かりました。川跡からは弥生時代後期後半から終末期の土器が多数見つかっています。現在の安原川をはさみ西側の白山市域でも発掘調査が行われており、そちらでは弥生時代の方形周溝墓や前方後方墳が見つかっています。弥生時代には川の両岸に村や墓域が広がっていたようです。

令和6年度で3年かけて行った長池地区の発掘調査を終了しました。いずれも弥生時代の終わり頃の村の跡であり、緑色凝灰岩を加工して玉製品（アクセサリ）を製作していたことなどが明らかになりました。今後は見つかった土器などの整理作業を進め、地域の歴史を更に明らかにしていきたいと思います。

